

Legacy™ System

角度付アバットメントの傾斜方向と埋入時の留意点

Legacy™インプラントには、セメント固定式、スクリー固定式双方に角度付アバットメントがラインナップされています。

Legacy™インプラントはアバットメントの回転防止機構に六角 (Hex) による嵌合を採用しております。したがって**角度付アバットメントの傾斜方向は、インプラントプラットフォームの内部六角により決定**します。(図1)

術前診断と補綴設計において、角度付アバットメントを使用することが予想される場合は、**最終的な内部六角の方向を調整しながら埋入することで、角度付アバットメントの傾斜方向をコントロール**します。

角度付アバットメントの傾斜方向と内部六角の相関関係は図2の通りです。例えば**上顎前歯部に埋入するインプラントの場合、唇側/口蓋側に六角の壁面が向くようにすれば、角度付アバットメントは口蓋側へ正しく傾斜**することになります。(図3)

Legacy1、2、3 インプラントはそれぞれ異なった形状のキャリアが連結されていますが、**各キャリアのボディには六角の「面」の位置がわかる印が施されています**。(図4) 埋入終了時にその印がどちらを向いているかが、そのまま角度付アバットメントの傾斜方向の目安になります。

また、**埋入途中でキャリアを外して埋入する場合は、ヘックスインサージョンツールの六角の面を目安にしてください**。(図5)

セメント固定式の場合の支台形状や、スクリー固定式のアクセスホールを、設計通り既製のパーツで再現することで、**審美性の高い補綴を低コストで完成**させることが可能になります。

【セメント固定式】 【スクリー固定式】



図1:角度付アバットメント。基部の六角がインプラントの内部六角に嵌合して装着される。その向きが傾斜方向を決定する。



図2:六角の嵌合と傾斜方向の相関関係。



図3:六角の壁面が唇側に向いていると、アバットメントは口蓋側へ傾斜。(上顎前歯の場合)

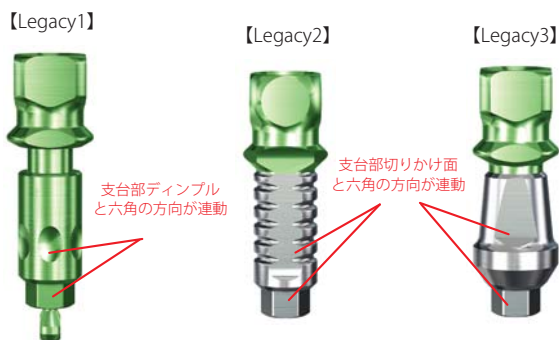


図4: Legacy1,2,3のキャリア支台部に施された、六角の方向と連動した印。



図5:ヘックスインサージョンツールを直接挿入し埋入する場合、先端の六角部の方向を確認。